

[P5] フォーリーが採集したヒナミクリ *Sparganium natans* L.(ガマ科)の産地は厚真である

山崎 真実 (札幌市博物館活動センター)

背景:ヒナミクリ *Sparganium natans* L.は小型のミクリ属の一種で、幅 2~6mmの線形葉をつけ、基本的な生活形は浮葉植物とされ、アジア南西部を除く北半球に広く分布する。ミクリ属のモノグラフ (Cook and Nicholls 1986)では日本産ヒナミクリの引用標本について“The Japanese record is based on a single specimen: ‘Azuma’, 13 July 1893. Faurie10368 (K).”としており、1980年代当時に知られていた日本産のヒナミクリ標本は英国王立キュー植物園植物標本庫(K)に保管される1点のみであった。その後も日本のヒナミクリの証拠標本が乏しく分布の有無に曖昧さが残されてきた。『日本水草図鑑』(角野 1994)では Faurie10368 (K)の紹介のみで検討はしていない。その後、滝田(2001)が自身が採集した根室半島産の証拠標本を引用し、『北海道植物図譜』(自費出版)でヒナミクリ *S. natans* L.として掲載した。現在、一部のリスト(邑田・米倉 2012, 米倉・梶田 2003-)を除き、日本で出版されている図鑑類にヒナミクリは掲載されていないため広く知られておらず、実態が不明のまま、絶滅危惧種にも挙げられていない。このような背景から、著者はキュー植物園植物標本庫にて Faurie10368(K)を確認し、形態およびラベルの記述を検証し、その産地について明らかにしたので報告する。

方法:2012年にキュー植物園植物標本庫にて標本調査を行い、ラベルの記述に基づき採集地について検討を行った。その結果明らかとなった産地での現存の有無を確かめるため、2010年~2012年の7~8月に現地踏査を行った。

結果・考察

(1)標本について:Kew 収蔵の日本産の *S. natans* は1点 Faurie10368 のみであった。タイプ標本 LINN1095.2との形態比較を行い、Faurie10368 が *S. natans* に当たると判断した。

(2)採集地について:ラベルの採集年月日「13 Juil 1893」は「1893年7月13日」と訳すことができ、フォーリーの標本コレクションに基づく採集年表(角田 1994)から、1893年(明治26年)7月13日にフォーリーは現在の北海道胆振地方の厚真~勇払(苫小牧)で採集している。産地に関するラベルの記述「Riviere de Azuma」を解釈すると、フランス語で riviere は「川」を意味し、de は「~の(所有), ~から(場所, 産地), ~へ・に(方角)」の意味をもち、厚真の読みは 1960年代から「アツマ」と「アヅマ」が使用され 1880年代に採集された標本のラベルに Adzuma と記された例もあることから、採集地は現在の北海道厚真川流域、広くとらえると現在の苫小牧市東部~厚真町の一帯といえる。

(3)現地調査:厚真川とその周辺の沼や湿地を調査したが、現時点では厚真周辺ではヒナミクリは再確認できていない。既知の産地等から類推して、まずは北海道内の海岸沿いの湿原を重点的に調査する必要があるだろう。